

遣明使の見た都市—寧波

寧波は唐の時代より重要な港町として、日本と深いかかわりを持ってきた。15, 16世紀には、室町幕府の使節団が朝貢のためにこの町を訪れるようになった。使節団の人々は、寧波という町に大きな関心を示し、ここでの滞在を満喫した。こうした人々による日記には、当時の寧波に関する情報が豊富に記されている。本報告では、これらの記述を手がかりに、当時の日本人が中国社会をどのように捉えていたのかを明らかにしたい。



◆日時: 2013年12月12日(木) 16:30-17:30

※ 通常と時間が異なります

◆報告者 朱莉麗(東洋文化研究所 訪問研究員)

◆会場: 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 1F ロビー

◆参加費: 無料(申し込みは不要です)

東文研・ASNET共催セミナー

東洋文化研究所とASNETは毎週木曜日の夕方にセミナーを開催しています。どなたでもご参加頂けます。皆様のお越しをお待ちしております。詳しくはこちら: <http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

東大ASNET

検索



東京大学

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

Network for Education and Research on Asia

